

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

評価責任者	所属	観光交流文化局 文化財課
	氏名	課長 岩田 智穂

政策	1 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します
----	-------------------------------

施策	1 世界的文化財や地域文化財の保存と継承
----	----------------------

施策の目的
 静岡市内には、世界文化遺産富士山構成資産「三保松原」をはじめ、国宝「久能山東照宮 本殿、石の間、拝殿」や特別史跡「登呂遺跡」など歴史的価値の高い多くの文化財が存在します。その一方、その価値が明らかにされていないものも多く潜在しています。3次総が目指す「歴史文化のまち」の実現には、これらすべてが欠かせない「文化財」であり、確実に未来へ引き継ぐことが求められます。そのために行政、所有者、市民などがその価値を共有し、保存と継承に取り組める体制の構築及び意識の醸成を図ります。

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	民俗文化財の保存団体の構成員はやや目標値に届かなかったものの、文化財サポーターについては、順調に登録者数を伸ばしている。また、文化財サポーター入門講座の講師や運営補助に文化財サポーターを動員するなど新たな取り組みの実施により、文化財保護に携わる活動機会の提供し、市民との文化財価値の共有や意識の向上が図られた。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	民俗文化財の保存団体の構成員は目標達成には若干届かなかったものの、前年度に比べても増加している。文化財サポーターについては、前年度に引き続き順調に登録者数を伸ばしている。文化財サポーター入門講座の講師に文化財サポーターを動員するなど前年度からの取り組みを継続し、文化財保護に携わる活動機会の提供し、市民との文化財価値の共有や意識の向上が図られた。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	民俗文化財の保存団体の構成員数は高齢化と新型コロナウイルス感染症の影響で目標達成には届かなかった。市民ボランティアの人数は、多岐にわたる文化財に触れる機会を提供するなど意識の高揚を図ることによって毎年登録者数を順調に伸ばしている。文化財サポーター入門講座では、文化財保存会や関係団体だけでなく大学や高校の教育機関に対して積極的な情報発信をすることで受講者の年齢層が広がり、幅広い市民との文化財価値の共有や意識の向上が図られた。
	令和4年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	民俗文化財の保存団体の構成員数は高齢化と新型コロナウイルス感染症の影響で目標達成には届かなかった。市民ボランティアの人数は、多岐にわたる文化財に触れる機会を提供するなど意識の高揚を図ることによって毎年登録者数を順調に伸ばしている。文化財サポーター養成講座では、文化財保存会と対話する機会や静岡市に点在する文化財を幅広く取扱うことで、文化財価値の共有や意識の向上が図られた。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	494人	484人	97.9%	a	
民俗文化財保存団体の構成員数	494人	2	494人	493人	99.8%	a		
		3	494人	466人	94.3%	b		
		4	494人	436人	88.3%	b		
		1	114人	122人	107%	s		
	文化財保護事業に携わる市民ボランティアの人数	101人	2	126人	133人	105%	s	
			3	138人	147人	106.5%	s	
			4	150人	163人	108.60%	s	
			1					
指標以外の成果		2						
		3						
		4						

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
文化財サポーター育成	①文化財サポーター養成講座の実施（全5回） ②文化財サポーターの活動機会の提供（R4.5回）	2	1	434	0	39	0.5	0.0	0.0	○
			2	368	0	11	0.5	0.0	0.0	
			3	368	0	16	0.5	0.0	0.0	
			4	350	0	51	0.5	0.0	0.0	
神部神社浅間神社本殿ほか15棟建造物の保存修理事業 （静岡浅間神社社殿建造物保存修理事業）	①重要文化財建造物静岡浅間神社社殿群の修繕に対する助成	1	1	25,700	0	21,000	1.0	0.0	0.0	○
			2	29,400	0	29,400	1.0	0.0	0.0	
			3	30,000	0	30,000	1.0	0.0	0.0	
			4	20,000	0	20,000	1.0	0.0	0.0	
久能山東照宮本殿・石の間・拝殿ほか13棟建造物防災施設事業 （久能山東照宮文化財保存修理事業）	①国宝及び重要文化財建造物久能山東照宮社殿群の防災設備修繕に対する助成 R3年度で事業終了	1	1	30,000	0	30,000	2.0	0.0	0.0	○
			2	13,358	0	13,358	2.0	0.0	0.0	
			3	10,762	0	10,752	2.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
史跡片山廃寺跡保存整備事業	①地下を把握するための発掘調査を実施（1件/年） ②発掘調査の成果及び史跡整備の方向を整備委員会に報告（1回/年） ③史跡内民地の公有地化（189.4㎡）（R4）	1	1	923	0	576	1.5	0.0	0.0	○
			2	111,220	0	110,517	1.5	0.0	0.0	
			3	1,093	0	320	1.5	0.0	0.0	
			4	62,035	0	32,450	1.5	0.0	0.0	
史跡小島陣屋跡保存整備事業	①発掘調査の実施（R4:30㎡） ②御殿書院移築復原工事1年目（解体工事・基礎工事）（R4） ③史跡整備工事1年目（R4）／駐車場工事1年目 ④整備委員会の開催（3回/年）	1	1	15,922	0	7,776	1.5	0.0	0.0	○
			2	19,666	0	11,867	1.5	0.0	0.0	
			3	119,163	7,448	56,256	1.5	0.0	0.0	
			4	208,544	0	131,222	1.5	0.0	0.0	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

静岡浅間神社や久能山東照宮等の建造物、片山廃寺や小島陣屋の史跡等の貴重な文化財は確実に未来へ引き継ぐ必要がある。そのためには、行政だけでなく市民を巻き込みながらその価値を共有していく必要がある。引き続き保存と継承に取り組める体制づくりや市民の意識の醸成を図るための場の提供に取り組んでいく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	1 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します
----	-------------------------------

施策	2 世界的文化財や地域文化財の活用
----	-------------------

施策の目的	静岡市内には、世界文化遺産富士山構成資産「三保松原」をはじめ、国宝「久能山東照宮 本殿、石の間、拝殿」や特別史跡「登呂遺跡」など歴史的価値の高い多くの文化財が存在します。3次総が目指す「歴史文化のまち」の実現には、これら「文化財」の価値を正しく理解した上で、地域の貴重な資源として活用していくことが求められます。そのために文化財の価値を広く発信し、文化財の公開活用による意識の醸成や地域の活性化につながる体制の構築を図ります。
-------	---

評価責任者	所属	観光交流文化局 文化財課
	氏名	課長 岩田 智穂

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標としている「文化財公開事業の開催日数」では目標値を下回ったが、公開日には多くの人が訪れた。「国指定文化財等でのユニークベニューの開催件数」については、平成31年3月にオープンした「みほしるべ」において7回開催したことにより目標を大きく上回った。「みほしるべ」で企画展示やイベントを開催し、積極的にPRを行ったことで、予想を上回る約67万人（目標21万人）の来館があり、情報発信による意識の醸成や地域の活性化に大きく寄与した。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標としている「文化財公開事業の開催日数」では目標値を下回ったが、公開日に訪れた人は昨年を上回った。「国指定文化財等でのユニークベニューの開催件数」については、「みほしるべ」と登呂博物館での開催件数が前年度を大きく上回り、目標を達成した。また、SNSを通じた情報発信により令和3年度3月末時点で「みほしるべ」の来館者数が99万人を越え、文化財の価値を多くの人に共有することができた。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標としている「文化財公開事業の開催日数」では、新たに文化財所有者に対し、協力依頼を行い開催を予定した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施が困難となり、目標値を下回ったが、公開日には多くの人が訪れた。「国指定文化財等でのユニークベニューの開催件数」については、「みほしるべ」と「登呂博物館」、その他文化財課が管理する各施設で積極的にユニークベニューを実施した結果、目標を達成した。
	令和4年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標としている「文化財公開事業の開催日数」では、新たに文化財所有者に対し、協力依頼を行い開催を予定した。目標値は下回ったが公開施設数は増加しており、公開日には多くの人が訪れた。「国指定文化財等でのユニークベニューの開催件数」については、蒲原地区をはじめとする各施設で積極的にユニークベニューを実施、登呂博物館、みほしるべにおいても昨年度から引き続き企画展等に力を入れた結果、目標を達成した。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率 (%)	評価	目標値の算出根拠
			1	8件	12件	150.0%	s	
成果指標	国指定文化財等でのユニークベニューの開催件数	7件	2	9件	18件	200.0%	s	歴史的価値が全国的にも高いと認められる国指定文化財等をユニークベニューで（副次的に）活用する件数を指標とした。 平成30年度実績を基準とし、毎年度1件ずつ開催件数を増やすことを目標とした。
			3	10件	18件	180.0%	s	
			4	11件	29件	263.0%	s	
			1	24日	20日	83.3%	c	
	文化財公開事業の開催日数	22日	2	26日	20日	77%	c	本市を特徴づける文化財の活用として地域と連携した公開や伝統行事の実施があるが、経済的効果高めるためにも開催日数を指標とした。 平成30年度実績を基準とし、毎年度2日ずつ開催日数を増やすことを目標とした。
			3	28日	10日	35.7%	d	
			4	30日	23日	76%	c	
			1					
指標以外の成果			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
三保松原保全再生事業	<ul style="list-style-type: none"> ・松原保全研修の開催 ・リスク軽減事業（マツを病気から守る事業、倒木を防ぐ事業等） ・松原再生事業（松原の景観改善事業、健全な松林維持事業） ・圃場での三保由来のマツ苗の育苗 	1	1	245,559	0	230,943	3.0	0.5	0.0	○
			2	198,124	0	163,475	2.5	0.5	0.0	
			3	203,769	0	193,218	2.5	1.0	0.0	
			4	110,287	0	102,349	2.5	1.0	0.0	
駿府九十六ヶ町町名碑設置事業	①町名碑設置（R4:4基）	2	1	2,970	0	2,649	0.2	0.0	0.0	○
			2	2,970	0	2,768	0.2	0.0	0.0	
			3	2,970	0	2,523	0.2	0.0	0.0	
			4	2,500	0	2,440	0.2	0.0	0.0	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

ユニークベニューや文化財公開事業等を実施し、文化財の価値を広く発信することで、市民の意識の醸成、地域の活性化につなげるよう今後も引き続き地域の貴重な資源を積極的に活用していく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	1 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します
----	-------------------------------

施策	3 徳川家康公、今川義元公を活かした歴史文化の発信
----	---------------------------

施策の目的	3 次総に掲げる歴史文化のまちづくりの実現に向け、徳川家康公をはじめとする地域の歴史資源を掘り起こし、磨き上げ、市内外に広く発信して市民の誇りの醸成と集客を図ります。 具体的には、歴史文化のまちづくりの核施設として今後開館を目指す歴史文化施設の整備事業に重点的に取り組むほか、駿府城跡天守台発掘調査現場を見える化することにより歴史学習の場や観光資源として活用することや、平成27年の徳川家康公顕彰四百年記念事業を400+プロジェクトとして継承することによって、地域の歴史文化への関心喚起を図ります。
-------	--

評価責任者	所属	観光交流文化局 歴史文化課
	氏名	課長 田中 稔久

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	今川氏をテーマとした歴史文化施設のプレ展示や、今川氏にゆかりの深い臨濟寺の資料調査の報告会などにより、今川氏を発信することができた。また、駿府城跡天守台発掘調査現場は15万人を超える来場者があり、歴史学習や観光資源としての活用を図ることができた。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	今川氏にゆかりの深い臨濟寺の資料調査の実施・完了、今川義元公銅像PR・小学校へのマンガ本配布など今川義元公生誕500年祭推進委員会との連携により今川氏を発信することができた。また、駿府城跡天守台発掘調査現場は来場者は約6万8千人とコロナ禍の影響で前年度比で減少したものの、ブログや出前講座等を通じた積極的な情報発信も行うことにより、歴史学習や観光資源としての活用を図ることができた。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	今川氏にゆかりの深い臨濟寺の資料調査の講演会を実施、コロナ禍により定員を減らしながらも、181人の来場があった。また、小学校へのマンガ本配布など今川義元公生誕500年祭推進委員会との連携により今川氏を発信することができた。駿府城跡天守台発掘調査現場の来場者は約9万3千人とコロナ禍の影響にも関わらず前年度比で増加、ブログや出前講座等を通じた積極的な情報発信も行い、歴史学習や観光資源としての活用を図ることができた。
	令和4年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	家康公及び今川氏を常設展示の柱と据えた歴史博物館の開館やその開館に照準を合わせたプレ事業や歴史文化推進事業など、家康公や今川氏への市民の関心の高さが、関連主要事業の実施を支えている。こうした実態は、十分に歴史文化のまちづくりに資するものとなっていることから、施策の目的はおおむね達成されたと判断した。

※【評価基準】S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
			1	—	—	—	—	
徳川家康公を郷土の偉人として誇りに思う市民の割合	83.4% (平成30年度)	2	—	—	—	—	—	市民アンケートにおける「徳川家康公を郷土の偉人として誇りに思う」の問いに対し、「そう思う」と回答した人の割合について平成30年度83.4%を基準都市、令和4年度88.8%の達成を目標としている。
		3	—	83.9%	—	—		
		4	88.8%	-	-	a		
		1	—	—	—	—	—	
今川義元公を郷土の偉人として誇りに思う市民の割合	63.3% (平成30年度)	2	—	—	—	—	市民アンケートにおける「今川義元公を郷土の偉人として誇りに思う」の問いに対し、「そう思う」と回答した人の割合について、平成30年度63.3%を基準とし、令和4年度72.0%の達成を目標としている。	
		3	—	64.7%	—	—		
		4	72.0%	-	-	s		
		1	—	—	—	—		—
		2	—	—	—	—	—	
		3	—	—	—	—		
		4	—	—	—	—		
		1	—	—	—	—	—	
指標以外の成果	なし							

※【評価基準】s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
歴史文化施設建設事業	①歴史文化施設の建設・展示設計及び工事 ②歴史文化施設の展示資料収集・調査 ③建設予定地の発掘調査・資料整理（～R2年度）	1	1	483,700	148,660	325,582	7.5	1.5	0.0	○
			2	574,483	279,900	363,623	7.5	1.5		
			3	4,318,837	446,200	1,799,104	8.3	1.2		
			4	439,897	2,928,531	3,128,236	8.3	1.2		
駿府城跡天守台発掘調査見える化事業	①常設見学ゾーン・発掘情報館「きゃっしる」での速報展示 ②現場見学会、講演会実施	2	1	19,384	—	15,256	3.0	2.0	0.0	○
			2	11,244	—	8,449	3.0	2.0		
			3	11,061	—	8,891	1.5	2.0		
			4	15,125	0	10,232	1.5	2.0		
歴史文化施設プレ事業	①歴史文化施設基本展示につながるテーマ展示の実施 ②歴史観光ガイドスの試行 ③今川氏顕彰事業の実施	3	1	6,560	—	6,193	0.5	0.5	0.0	○
			2	5,219	—	4,770	0.5	0.5		
			3	10,412	—	8,769	0.2	0.8		
			4	11,176	0	10,260	0.2	0.8		
歴史文化推進事業	①徳川みらい学会と連携した講演会等の実施 ②民間団体や関連自治体と連携した情報発信	4	1	2,768	—	2,479	1.5	1.0	0.0	○
			2	2,428	—	2,120	1.5	1.0		
			3	2,428	—	2,385	1.0	0.0		
			4	2,851	0	2,821	1.0	0.0		
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

令和5年1月13日に歴史博物館がグランドオープンし、常設展示においては、郷土の歴史とりわけ今川と徳川にテーマを絞った展示を展開している。また、1月よりNHK大河ドラマで、「どうする家康」が放送されるなど、市民の戦国時代から近世にかけての歴史に大きな関心が寄せられている。こうした動きを追い風と捉えれば、今後指標で用いた同様の調査は高い水準で推移することが期待はできる。これを一過性のものとせず、様々な事業による複合的な仕掛けで人々の関心を恒久的なものにしていくことが今後求められていくこと、さらに静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進するという大きな目標を念頭に置きながら業務に取り組んでいきたい。